

# 北神地域のバス路線維持に関する提案(要約版)

## 第1～3章 背景と目的・計画の区域・対象時期

### ●目的

「神戸市地域公共交通網形成計画」に示された将来像や施策の取り組み方針に基づき、地域の利用実態を踏まえた「持続可能な公共交通ネットワーク」「地域住民のモビリティ」の確保を目指して、北神地域のバス路線を維持するための方策を提案する。

### ●計画の区域

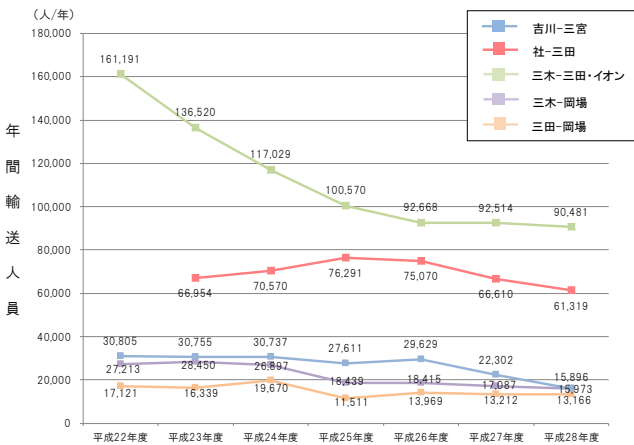
神戸市北区の北神地域のうち田園地域を中心とした地域

### ●対象時期

2025年(地域公共交通網形成計画の目標年次と同じ)

## 第4章 地域および公共交通の現状・課題

- 高齡化の進行に伴い自動車の運転が困難になる高齡者の増加が懸念され、将来にわたっての移手段の確保が求められている。
- 補助路線バスについては、運行本数は維持しているものの、利用者数は年々減少傾向にあり、将来にわたって維持できるか懸念される。
- 補助路線バスは、複数市に跨る長大バス路線となっているが、利用されている区間が限定されている等の状況であり、利用実態に応じた見直しが行われている。
- 住居が散在しており、バス停留所までのアクセスが不便な地域がある。
- 地域の生活の足を確保するため、各地域でコミュニティバスの取り組みが進められている。



### ●地域コミュニティ交通の取り組み



八多町コミュニティバス  
(平成29年10月運行開始)



淡河町コミュニティバス  
(平成30年5月運行開始)



大沢町コミュニティバス  
(平成28年9～11月  
社会実験)

## 第5章 北神地域のバス路線維持に関する提案

### ＜基本方針＞

上位計画である神戸市地域公共交通網形成計画の取り組み方針に基づき、鉄道と連携し、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指す。

### ＜提案の骨子＞

- まちづくりと連携して、隣接市に跨る長大バス路線を利用実態を踏まえて見直す。
- 地域の生活の足を確保するため、地域をきめ細やかに運行するコミュニティバスなどの新たな地域コミュニティ交通の導入を図る。
- バス路線の見直しにあわせて、バスの接続機能を有する拠点整備を行い、バスの利便性向上・利用促進とともに、地域の活性化を図る。
- バスの利便性向上・利用促進を図るための乗継円滑化の検討などもあわせて実施する。

### ＜提案概要＞

#### ①バス路線再編による公共交通ネットワークの形成

##### 「道の駅淡河」周辺を拠点とする公共交通ネットワーク

三木三田線、三木岡場線、岡場循環線、八多町コミュニティバスを利用実態を踏まえて見直し

##### 「イオンモール神戸北」を拠点とする公共交通ネットワーク

大沢町コミュニティバスの運行、社三田線の経路新設

#### ②バスの接続拠点の整備

##### 拠点機能の整備

- 「道の駅淡河」周辺の拠点機能の整備
- 「イオンモール神戸北」の拠点機能の整備

#### ③乗り継ぎ円滑化の検討

ダイヤ調整

料金体系

#### ④公共交通利用の意識啓発

公共交通機関の情報提供

#### ⑤その他の施策

##### 拠点周辺の活用

パークアンドバスライド駐車場

##### 観光資源との連携

観光資源を活用した交流拡大

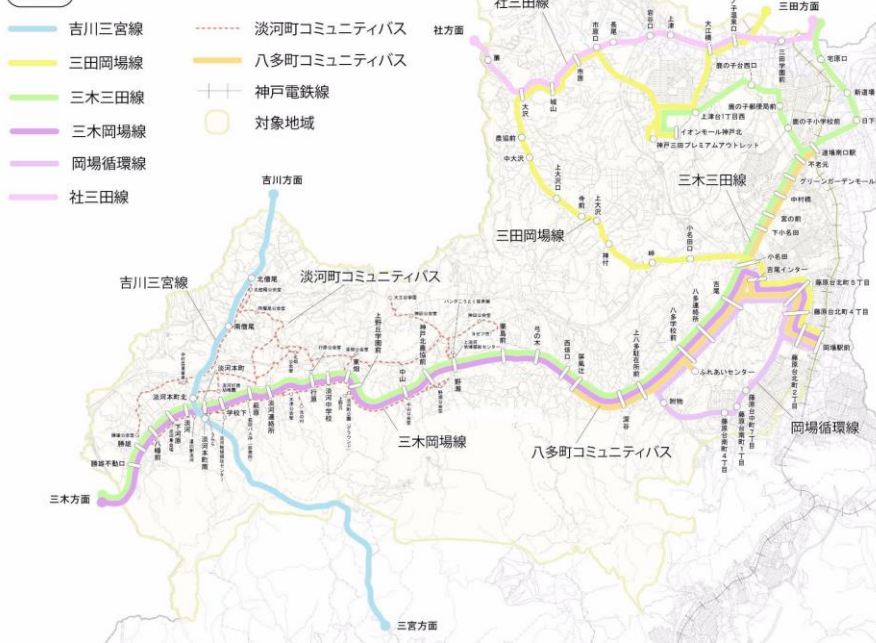
##### ICT事業

予約システムの構築

##### 安全対策

バス停の位置や乗降スペースへの配慮

### 現況



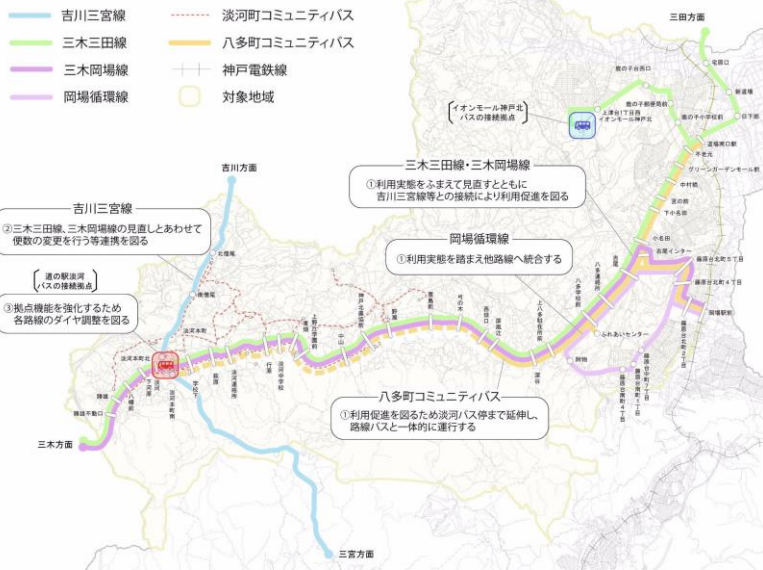
### 提案概要



# 北神地域のバス路線維持に関する提案(要約) (第5章 具体的な方策)

## ①バス路線再編による公共交通ネットワークの形成

### 「道の駅淡河」周辺を拠点とする公共交通ネットワーク



### 「イオンモール神戸北」を拠点とする公共交通ネットワーク

#### ②買物需要等に応じた商業施設への経路新設を行う



## ②バスの接続拠点の整備

### 拠点機能の整備

- 「道の駅淡河」周辺と「イオンモール神戸北」をバスの接続機能を有する拠点として整備する。(情報案内・待合環境の充実)
- 周辺施設と連携し、バスを利用した来訪者増加に向けて地域の魅力の発掘や発信方法を検討する。



道の駅淡河の現況



イオンモール神戸北の現況

## ③乗り継ぎ円滑化の検討

- バスの接続拠点において、バスからバスへの乗継を行う利用者の利便性向上を目指す。

### バス同士のダイヤ調整



路線バス・コミュニティバス間のダイヤ調整

### 料金体系の検討



路線バス・コミュニティバス間や乗継拠点を介した多方面へ乗継に対する料金施策

### 乗継先の公共交通機関の情報提供の強化



情報案内板の設置の検討



乗継先の公共交通機関の情報イメージ  
(左:イオンモール神戸北の情報案内板、右:岡場駅のバス乗り場案内)



## ④公共交通利用の意識啓発

- 路線見直しにあわせて、アンケートなどのコミュニケーションツールを活用した意識啓発や、ワークショップなどを通じた情報提供などにより、バスの利用促進を図る。

### バスの利用促進



路線見直しにあわせたアンケート調査



ワークショップを通じた情報提供



地域のニュース等広報誌の発行



例:三田市 暮らしの交通まちづくりワークショップ



例:⑤区民広報誌、⑥北神まちづくりニュース

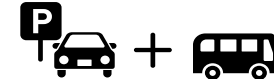


## ⑤その他の施策

### 拠点周辺の活用

- バス接続拠点まで公共交通機関でアクセスできない方に対しても、バス利用できる環境整備として、パークアンドバスライド駐車場やサイクルアンドバスライド駐輪場を検討する。

### パークアンドバスライド



例:みなぎ台(三木市)

### サイクルアンドバスライド



例:神戸市の取り組み

## ICT事業

- 積極的にICTを活用し利用促進を図る。

### 地域統合バスロケの構築



例:神戸市交通局のバスロケーションシステムの画面



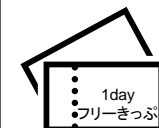
地域コミュニティ交通における予約システムの構築

予約システムのICT化

### 観光資源との連携

- 観光資源を活用した交流拡大として、日帰り観光可能なルート設定や企画乗車券の開発など、鉄道・バスと観光振興が連携できる仕組みづくりを地域と協働して検討する。

### 企画乗車券との連携



例:バス旅ひょうご

### 地域の観光資源との連携



例:北区大沢町 味覚祭り

## 安全対策

- ルートやダイヤの見直しに合わせ、関係機関と調整し、利用者の安全が図られるよう、バス停の位置や乗降スペースなどに配慮する。